

白川の花歳時記 11月(前期)



①柿 (5-11-1)
「里古りて 柿の木持たぬ
家もなし」芭蕉



②紫式部 (11-11-3)
「いややさし むらさきしきぶ
をりもてば」山口青邨



③烏からす瓜 (4-11-8)
「烏瓜 こんがらかつて
藪の神」本橋定晴



④八つ手 (4-11-11)
「たくましく 八つ手は
花に成りにけり」尚白



⑤竜胆・りんどう (5-11-12)
「野の色に 紫加え
濃りんどう」稲畑汀子



⑥白菊 (12-11-12)
「いつせいに 今朝の食卓
菊の卓」星野立子



⑦梔子の実 (5-11-12)
「梔子の 実のみ華ぐ
坊の垣」貞弘 衛



⑧千振 (5-11-13)
「せんぶりの 枯れ切らぬ花
逆さ干し」上野さち子



⑨クコの実 (6-11-10)
「けふありて 忘れ去るべき
枸杞の実か」千代田葛彦



⑩檀まゆみの実 (4-11-16)
「近づきて 花にはあらで
真弓の実」五十嵐八重子



⑪千両 (5-11-16)
「千両の 一粒づつに
弥陀の雨」篠原二歩



⑫野葡萄 (4-11-16)
「野葡萄の 色ちりばめて
熟れそめし」近江佐代子